

発刊にあたって

この度、根室市の水産業の現状を紹介する「令和5年度版 水産ねむろ」を発刊致しました。

当市は、北方海域の豊かな水産資源を背景に、北洋漁業の開拓とともに発展を遂げて参りましたが、度重なる国際漁業規制の強化等により、沖合漁業は縮小を余儀なくされてきました。

また、漁業生産量の著しい低迷や国際情勢の変化に伴う資材・燃油価格の高騰など、水産業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しておりますが、未曾有の大不漁に見舞われ低調に推移している「さんま漁」において、昨年は、従事頂いた方々のご尽力により、一昨年の取扱いを上回る水揚げとなり、「14年連続 水揚げ日本一」の座を確保することが出来ました。

「昆布漁」においても、近年減産傾向で推移していた「貝殻棹前昆布」の繁茂状況が非常に良好で、近年稀に見る「豊漁」となったほか、「いわし漁」や「沿岸漁業」における漁獲も好調に推移したこともあり、一定程度の原魚を確保することが出来ました。

過去の取扱いを顧みますと、決して満足のゆく結果ではありませんが、全国的に漁獲量が減少傾向にある中、当市においては、多種多様の原魚が水揚げされ、結果的に一昨年の全体漁獲量を上回ることが出来ましたことは、「水産都市・根室」の底力と、矜持の表れを強く感じたところであります。

水産業は今、過渡期を迎えております。

新たな時代を切り拓くためには、これまでに増して水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させ、将来を担う若者にとって魅力ある産業への変革が求められております。

市と致しましては、こうした「新時代」の潮流に乗り遅れることなく、「水産都市・根室」の将来ビジョンを見据えた中で、引き続き、日本でも有数の沿岸域を活かした各種養殖業の可能性を模索しつつ、「つくり育てる漁業」の定着と持続可能な生産体制の構築、更には「陸上養殖」の可能性も含め、新たな産業の創出に向けて、粘り強く積極的にチャレンジして参ります。

本紙を通じて、当市水産業の現状をご理解いただき、今後とも当市水産業の発展に向け、お力添えを頂ければ幸いに存じます。

結びに、本紙作成に際し、ご協力頂いた関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年3月

根室市長 石垣 雅敏

